

〈受賞者の声〉

令和5年度 功績賞

EICA 元 副幹事長 新 井 喜 明
元 株式会社 明電舎

この度は、功績賞を頂き、ありがとうございました。賞をいただけるような功績があったか不安なところがありますが、大変うれしく思います。

思い起こせば、本学会の総会は、毎年「きゅりあん（品川区立総合区民会館）」で開催されておりますが、当時「きゅりあん」は品川区の区民会館であり、区民のための施設として、どうして京都の本学会に貸し出すのかという意見も会館内にあったとのこと。弊社が品川区に本社があり、弊社の社員が利用する（たしかに品川在住の社員も多い）ということで、弊社が窓口となることで許可を得たと聞いていました。本学会の副幹事長引き継いでの初めての仕事は、本学会の窓口として、総会の申し込みと同時に申し込み手数料の支払いを行うことでした。受付にて手続きをしていますと、当時の受付の方（雑談のつもり）から、急に、本学会の概要とどのような活動をしていますかと質問されて、本学会とは、会員歴は長いですが、研究発表会等に発表するだけの参加でしたので、まったく活動内容を理解しないない私は、「ハテ？」と困った顔をしていたようで、ほんとうに気まずい雰囲気の中で、手続きを済ませたにがい経験がありました。あれから11年、副幹事長、その後の総務委員、総務アドバイザーの経験をさせていただき、いまでは100点満点以上に本学会のPRができそうですが？？？

今後も、一会員として本学会に参加をさせていただきますので、引き続き、よろしく願いいたします。最後に、本学会のますますの発展と会員皆様のご健勝を祈念いたします。ありがとうございました。

元 マレーシア工科大学 (UTM) / マレーシア日本国際工科院 (MJIT) 後 藤 雅 史
化学プロセス・環境工学科 教授

古稀を迎えた昨秋、10年間を過ごしたマレーシアから日本に戻りました。定職も無くなり、いくつかの所属学会と共に、長い間お世話になったEICAにも退会届けを提出したところ、思いがけなくも名誉会員にさせていただけることになりました。ありがたく思うと同時にとても恐縮しています。

私は1978年3月まで、故平岡先生の講座で武田先生グループの末席を汚しておりました。EICA 初代事務局長の故津村先生はまだ平岡研究室の院生で、いつも教室の片隅でTime Sharing（死語ですね）の端末を操作されていました。私は同年夏に渡米し、Rice大学の故アンドリュース先生の元でPhDを頂いた後もずるずると米国に居続けましたが、1985年にIAWPRC（現・IWA）のICAワークショップ（デンバー・ヒューストン）に参加された団長の故平岡先生以下、後にEICA設立の中心となる代表団の方々にお会いしたことを覚えております。前編集委員長の井手先生がRice大学に留学されてきたのは、その頃でした。前会長の清水先生がTexas大学に留学されてきたのは、もう少し後だったでしょうか。

IWA (IAWQ)/ICA 横浜・京都大会（1990年）を機に、学会の前身である環境システム計測制御研究会が設立され、数年後に学会化準備の一つとして、会誌発行のために編集委員会が設けられました。初代編集委員長は、草薙の静岡県立大学の教授を勤められていた故岩堀先生でした。私は、当時、同じ旧・清水市（現・静岡市清水区）にあった海洋バイオテクノロジー研究所清水研究所に勤務していたご縁もあって、平岡先生のご推挙をいただき研究会誌・学会誌編集のお手伝いをするようになりました。最新のEICA誌は第28巻ですので、もう30年近くも昔の話です。

「人生七十古來稀」の句のある杜甫の「曲江」は、「傳語風光共流轉 暫時相賞莫相違」で結ばれています。その意は、「このような（蝶や蜻蛉の舞う）自然の風光に対して『ともに流転して行きましょう』と伝えたい、『しばらく相ともに楽しみ、お互い背くことのないようにしましょう』と。」だそうです。さて、私は、何時になればこの様な心境に至れるのでしょうか。「…古來稀」の前句は「酒債尋常行處有」です。こちらなら、まだなんとか…。

長い間、本当にありがとうございました。EICAが、これからもますます発展されますように。